

平成 24 年 5 月 9 日

森田耕一郎教授の死去に関して

国立天文台長 林 正彦

去る 7 日早朝（現地時間）、本台チリ観測所所属の森田耕一郎教授（享年 58 歳）が逝去されたことは、まことに残念です。ご遺族の方に心からお悔やみ申し上げます。

森田教授は、電波干渉計による天体画像合成の分野で、世界を代表する研究者でした。1980 年代初頭には、開所したばかりの野辺山宇宙電波観測所で助手を務められ、ミリ波干渉計を用いて、日本で初めて開口合成による天体画像の作成に挑まれました。野辺山時代には、いち早くアンテナの多素子化の重要性を強調され、大型ミリ波干渉計（LMA : Large Millimeter Array）を提案されました。この干渉計は、1990 年代初頭にチリ設置を目標と定め、また後年は日米欧の国際プロジェクトとして推進することとなって、現在のアルマ望遠鏡（アタカマ大型ミリ波サブミリ波干渉計、ALMA : Atacama Large Millimeter / submillimeter Array）へと至っています。

森田教授は、合同 ALMA 観測所のシステム評価研究者のリーダーを務められていました。これは、最終的には 66 台となるアンテナが受信する電波を使って、すばる望遠鏡より 10 倍高い解像度で天体の画像が正しく合成されることを見極めるという、極めて重要な仕事を行うチームのリーダーです。森田教授は、開口合成の第一人者としての実績と、その温厚な性格から、合同 ALMA 観測所でも、たいへん信頼され、慕われていました。

今回のことは、あまりに突然のことであり、国立天文台職員一同、深い悲しみを共有しつつ、森田耕一郎教授の遺志を継いで、前に進んで行くことを改めて誓うとともに、教授のご冥福をお祈り致します。